

令和元年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

都道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立南山城支援学校 】

1 実践テーマ	【Ⅱ・Ⅲ・Ⅴ】
2 実施対象者	府内特別支援学校小学部・中学部・高等部児童生徒 2 名 地域の小学生 61 名・府内高等学校生徒 51 名・保護者約 50 名 精華町役場職員 3 名・精華町体育協会 3 名・京都障害者スポーツ振興会・IDE ゆうゆうスポーツクラブ 企業（トヨタカローラ京都 3 名・タカゾノリーブス 6 名・特別養護老人ホーム加茂の里 1 名）
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 保健体育 ） ② 行事名（ ） ③ その他（ 高校生の交流会 ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ みんなのボッチャ・ボッチャで交流 ）
4 目標 (ねらい)	<ul style="list-style-type: none"> ・障害の有無にかかわらず、様々な人とのスポーツによる交流を通して他者への理解、尊重する資質及び能力を身に付け、共生社会の実現を目指す。 ・生徒たちが地域に出向き、障害者スポーツの普及を行うことで、自己肯定感を高め、生涯にわたり豊かなスポーツライフの継続を目指す。 ・ボッチャ等を通し、パラリンピックへの興味、関心を高める。
5 取組内容	<p>(1) 交流や共同学習の場での「ボッチャ」「卓球バレー」の活用 ①令和元年6月29日（土）第4回ボッチャ交流大会 in 南山城府内支援学校の中等部・高等部の生徒を中心に、本校を会場として交流大会を行った。府内支援学校 5 校 15 チームが参加。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">    </div> <p>②令和元年11月16日（土） 高校生の交流会 校区内の高等学校に呼びかけをし、高校生の交流会を行った。その交流での場で「ボッチャ」「卓球バレー」を通し、普及活動を行った。</p>



③令和元年12月6日（金） みんなのボッチャ in 南山城
 「卒業生やお世話になっている企業、地域の方々と交流を深め、共生型のスポーツ“ボッチャ”を広め、“ボッチャ”をとおして、楽しむ共生社会を目指す」という目的のもと、本校体育館にて第1回「みんなのボッチャ教室」を行った。本校在校生や卒業生がお世話になっている、また後援をしてくださっている企業、様々な関係機関、それに加えてボランティア（本校高等部の在校生3人）や保護者を含め30人以上が参加。



(2) 地域への普及

①令和元年11月28日

本地域の小学校の支援学級に出向き、本校高等部の生徒6名と、井手小学校の2、3年生の児童が「ボッチャで交流」を行った。本校の生徒が、ボッチャのルールを説明や試合の審判を行ったり、投げ方をアドバイスしたりと、主体的に「ボッチャで交流」の運営を通して、関わり合いを深めることができた。



6 主な成果

(1) ボッチャ交流大会、高校生の交流会、みんなのボッチャ

①ボッチャ交流大会

それぞれの練習の成果を発揮する場となり、「ボッチャ」をとおして、切磋琢磨する様子や、他校を応援したり、積極的に話しかけるなどの姿が見受けられた。

②高校生の交流会

本校の生徒が取り組んでいる「ボッチャ」や「卓球バレー」を行った。ルール等がわかりやすく、初めての高校生にとっても取り組みやすいスポーツである。本校の生徒がルール等を説明することで、地域の高校生との会話も増え、コミュニケーションの場となった。同じチームになった生徒たち同士が力を合わせて、スポーツを

	<p>とおしての交流を深め、普及活動にもつなげられた。</p> <p>③みんなのボッチャ</p> <p>初めてのボッチャをとおしての取り組みである。開催目的は、「卒業生やお世話になっている企業、地域の方々と交流を深め、共生型のスポーツ“ボッチャ”を広め、“ボッチャ”をとおして、楽しむ共生社会を目指す」ということを設定した。本校に関わってくださっている方々の交流の場として位置づけ、時間いっぱい楽しめた。途中のもぐもぐタイムでは、初めて出会った方々とも、ボッチャの話や世間話をするなど、本当によい交流の場になった。</p> <p>ボッチャをとおして楽しむ共生社会という目的は達成された。</p> <p>(2) 地域への普及について</p> <p>支援されることが多い本校の生徒にとっては、人に何かを教えるということは難しいことであり、また機会も少ない。「ボッチャ」の交流をして生徒が児童にルールややり方を教えることは大変貴重な体験となった。また、「ボッチャ」について児童にも知ってもらう機会にもなった。児童の楽しむ姿や笑顔を見て生徒は達成感を感じることができた。</p>
<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>(1) ボッチャでの交流について</p> <p>本校での交流大会(6月実施分)においては、空調設備が整った教室を休憩室とする等、体調面での配慮を行った。</p> <p>みんなのボッチャ交流会では、実施目的の理解を得るために早い段階で関係機関に説明に行った。</p> <p>(2) 地域への普及について</p> <p>児童への普及ということも考え、導入部分ではルールを少しわかりやすくし、親しみやすい形で行った。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>(1) ボッチャをとおしての交流について</p> <p>毎年課題にあげているが、身体的にも障害のある生徒が参加することを考えると、特別支援学校を会場(保健室の設備面、看護師の参加等)にせざるを得ない。多くの参加を呼びかけながら、環境面(支援学校の体育館の広さ等)で対応できないことがあり、実施場所の検討が必要である。</p> <p>(2) 地域への普及について</p> <p>単発的な活動が多いため、日常的に地域の中で交流できる場を考える必要がある。そこで様々なスポーツ等を交流できるようになれば、本当の意味での普及につながるように思われる。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>(1) ボッチャ交流大会について</p> <p>多くの支援学校からの参加があり。今後もこの取組を継続していくことを考えている。しかし、今年度以上の参加人数が予想される場合は、参加可能対象生徒を少し制限していくことも考えなければならない。</p> <p>(2) 地域への普及について</p> <p>多くの方に「ボッチャ」を知っていただけたところはあるが、高価な道具が必要なこともあり、より多くの方々を知っていただくために、道具の貸し出しの継続を行う。また、出前授業のような取組を継続的に行う必要がある。</p>